

第5回気象ビジネスフォーラム開催報告

令和3年2月18日に気象ビジネス推進コンソーシアム（WXBC）の1年間の活動を総括するイベントとして、「第5回気象ビジネスフォーラム～気象データとスマートシティ～」を開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、初のオンライン開催としたこともあり、会員・非会員あわせて全国から（中には海外からも）約550名の方に申込みいただき、約460名の方に参加いただきました。

フォーラム冒頭では、岩井国土交通副大臣から気象データはSociety5.0の実現に必要な不可欠なデータであり、気象データを活用することで、多様な産業でのサービスの創出、生産性向上が可能になる、と挨拶いただきました。また、来賓としてお越しになられた気象業務振興議員連盟会長の古屋衆議院議員からは、気象データアナリストなど、気象データ活用のできる人材を多く育成し、そのアドバイスをもとに企業が新たなビジネスを考えていくことが大切、との挨拶を兼ねた応援メッセージをいただきました。



岩井国土交通副大臣による開会ご挨拶



古屋衆議院議員によるご挨拶

今回のフォーラムでは、各企業からの気象データを活用したビジネス事例の紹介の後、スマートシティと気象データをテーマに、産・学・官それぞれのパネリスト4名でトークセッションを行いました。

気象データを活用したビジネス事例の紹介では、清水建設（株）より「豊洲スマートシティに関連する取組み、防災チャットボット」と題し、スマート防災訓練への取組み等について、（株）ルグランより「天気と連動したデジタルサイネージ」と題し、気象連動型サイネージの設置効果等について、（株）Nature Innovation Groupより「傘のシェアリングサービス アイカサ」と題し、他社の気象情報アプリと自社アプリとの連携によるサービスの利用促進等について、日本電気（株）より「気象データ等を用いた六本木商店街の混雑状況」と題し、六本木商店街における人流と気象の関係性等についてご紹介いただきました。

トークセッションでは、「産」より、(株) グルーヴノーツの最首英裕代表取締役社長、「学」より、越塚登 WXBC 会長・東京大学大学院情報学環長・学際情報学府長（コーディネーター）、「官」より、東京都戦略政策情報推進本部 ICT 推進部の荻原聡情報企画担当部長、及び気象庁の長谷川直之長官の 4 名にパネリストとして登壇いただき、「スマートシティと気象データ～横断的なデータ連携社会の構築に向けて～」をテーマに議論いただきました。長期予報・短期予報ともにメッシュがより細分化されると更に使いやすくなる（最首氏）、国と自治体のデータフォーマットの標準化を進めていきたい、気象庁と都のデータを掛け合わせた新しいサービスがつけられていけばよい（荻野氏）、技術開発・データ品質向上、データ利活用のための環境整備を未来型の市場にすべく、産学官でしっかり連携してやっていきたい（気象庁長官）などの意見が交わされました。



トークセッションの様子



トークセッションのコーディネーターを務めた越塚 WXBC 会長



パネリスト 4 名での記念撮影

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場での参加と例年同時開催していた会員企業等によるブース展示の開催は見送ることとなりました。イベントの規模縮小は残念でしたが、オンライン開催としたことで、これまで参加が難しかった首都圏以外に居住の方にも多く参加いただくことができました。参加者に実施したアンケート（175名から回答）でも、フォーラム全体について 95%が満足またはやや満足との回答をいただきました。参加いただいた皆さまありがとうございました。

今後も WXBC は気象データの利活用促進、気象データを扱える人材の育成支援、気象

データを有効活用した既存ビジネスの効率化・新規ビジネスの創出支援等に積極的に取り組んでいきます。